

WEALTH GROWTH 月間運用実績レポート

(2025年11月)

■ 11月のパフォーマンス

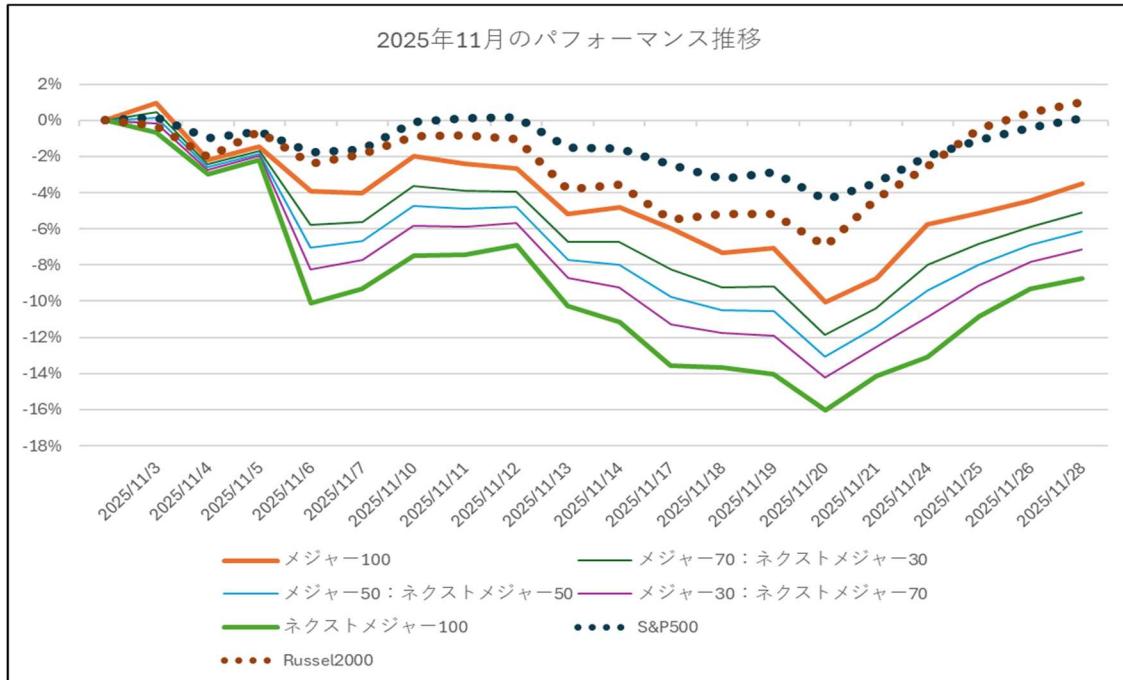
➤ ファンドの月間パフォーマンス

メジャー100	△3.53%
ネクストメジャー100	△8.72%

➤ 各指標の月間騰落率

S&P 500	+0.13%
Russel2000	+0.85%
NY ダウ	+0.32%
NASDAQ	△1.51%

➤ 運用コース毎の当月パフォーマンス



順位	戦略名	月間パフォーマンス	ベンチマーク	ベンチマーク (%)	超過収益
1位	メジャー100	-3.53%	S&P500	0.13%	-3.66%
2位	メジャー70：ネクストメジャー30	-5.08%	S&P500 (70%) Russel2000 (30%)	0.35%	-5.43%
3位	メジャー50：ネクストメジャー50	-6.12%	S&P500 (50%) Russel2000 (50%)	0.49%	-6.61%
4位	メジャー30：ネクストメジャー70	-7.16%	S&P500 (30%) Russel2000 (70%)	0.63%	-7.80%
5位	ネクストメジャー100	-8.72%	Russel2000	0.85%	-9.57%
	全戦略平均	-6.12%			-6.61%

※各指標のベンチマークについて

メジャー100 のベンチマークは S&P500 、ネクストメジャー100 のベンチマークはRussel2000 合成戦略は保有比率でベンチマークを合成したもの

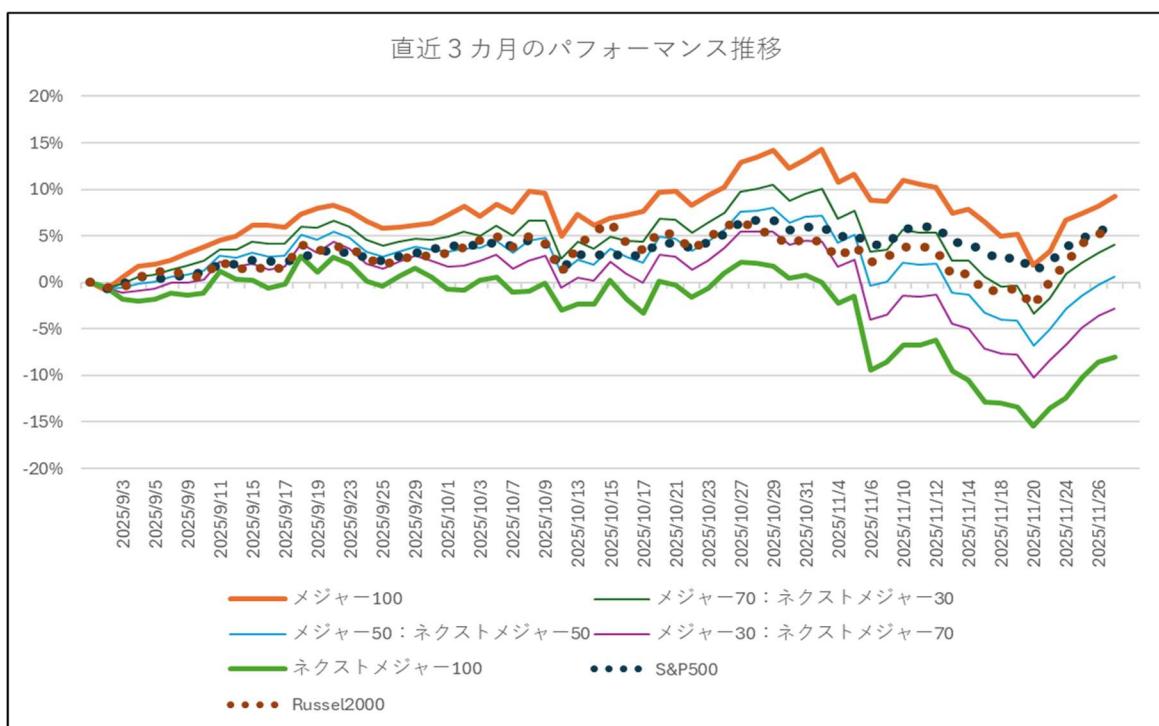
※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

Wealth Growth (ウェルスグロース) で最も「月間成績」が良かった戦略は、「メジャー 100」でした。

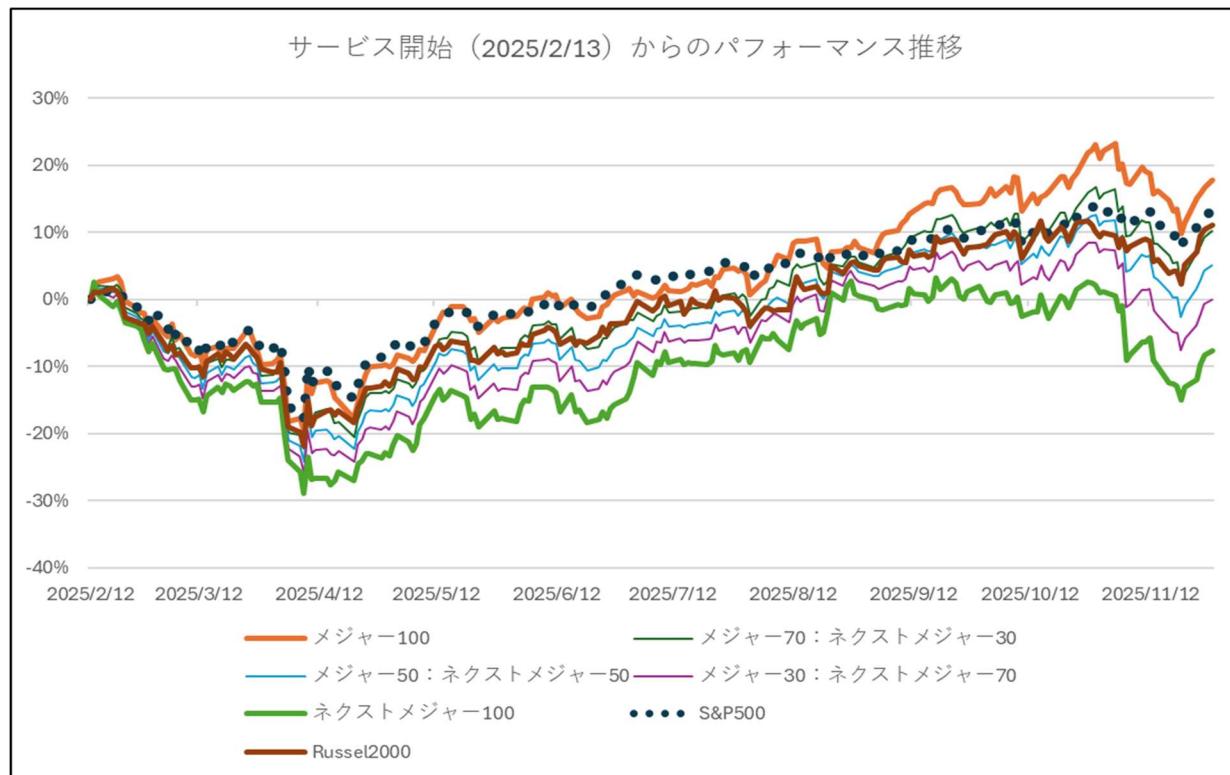
月間で△3.53%、対ベンチマーク超過収益では△3.66%となり、「メジャー100」は5カ月ぶりにベンチマークをアンダーパフォームする結果となってしまいました。

➤ 直近3カ月のパフォーマンス推移グラフ



➤ 設定来のパフォーマンス推移グラフ

WealthGrowth（ウェルスグロース）の2025年2月13日（サービス開始）から2025年11月末までの運用実績です。



※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

➤ 設定来の騰落率

	過去1ヶ月	過去3ヶ月	過去6ヶ月	過去1年	設定来	シャープレシオ	ソルティノレシオ
メジャー-100	-3.53%	9.26%	30.82%	-	17.78%	1.81	3.61
ネクストメジャー-100	-8.72%	-8.02%	20.59%	-	-7.59%	0.75	1.12
S&P500	0.13%	6.02%	22.98%	-	13.17%	1.81	3.39
Russel2000	0.85%	5.77%	27.43%	-	11.04%	0.80	1.37

※騰落率は、サービスローンチの2025年2月13日からのデータを対象に算出しています。

※シャープレシオ及びソルティノレシオは、実運用開始の2024年6月4日からのデータを対象に年率換算し算出しています。

■ 11月の市況概況

➤ 米国市場

11月の米国市場は、AI関連銘柄のバリュエーション調整と、底堅い個人消費を背景としたソフトランディング期待が交錯する展開となりました。政府機関閉鎖の解除や年末商戦の堅調な滑り出しが市場に安心感を与えた一方で、ハイパースケーラによる巨額のAI設備投資の持続性や競合激化が意識され、NVIDIAの決算後もハイテク株の上値は重い展開となりました。FRBの金融政策については、雇用統計の発表遅延などで不透明感が漂ったものの、月末にかけて早期利下げ期待が再燃しました。

・第1週（11月4日～11月7日）／ダウ平均：△1.21% S&P 500：△1.63%、NASDAQ：△3.04%

週初は10月のISM製造業景気指数が48.7と好不況の分岐点を下回り、景気減速懸念が重石となる一方で、OpenAIがAmazon（AWS）と約6兆円規模のクラウド契約を締結するなど、AIインフラへの投資需要は依然として旺盛であることが確認され、ハイテク株を下支えする場面がありました。しかし、AI関連株の過熱感に対する警戒感が広がり、データ解析大手パランティアは好決算にもかかわらず10%超下落、さらに、複数の有力投資家から市場の割高感を警戒する発言が相次ぎ、リスクオフの様相を呈しました。

・第2週（11月10日～11月14日）／ダウ平均：+0.34%、S&P 500：+0.08%、NASDAQ：△0.45%

つなぎ予算案を議会が可決し、過去最長となった政府機関の一部閉鎖が解除される見通しとなったことで、市場に安心感が広がりました。しかし、ソフトバンクGによるNVIDIA株全売却の報道は、一時的に半導体セクターの需給悪化懸念を招きました。また、FRB（連邦準備制度理事会）高官らの利下げへの慎重な発言を受け、12月の利下げ観測が一時後退し、これも市場の重石となりました。また、NVIDIAの決算を翌週に控え、AI半導体市場の競争激化懸念からハイテク株には持ち高調整の売りが出たこともあり、NASDAQ指数はマイナスとなりました。

・第3週（11月17日～11月21日）／ダウ平均：△1.91%、S&P 500：△1.95%、NASDAQ：△2.74%

NVIDIAの8-10月期決算は売上高・純利益ともに過去最高を更新し、次世代GPU「Blackwell」の需要も旺盛であることが示されましたが、市場の反応は限定的となりました。また、小売決算では、ウォルマートやTJXが好調となる一方、ターゲットが減益となるなど、インフレ下での消費の二極化が鮮明となり、これがFRB高官らの利下げへの慎重な発言を後押しする形となり、市場全体がリスクオフモードに包まれました。

・第4週（11月25日～11月28日）／ダウ平均：+3.18%、S&P 500：+3.73%、NASDAQ：+4.91%

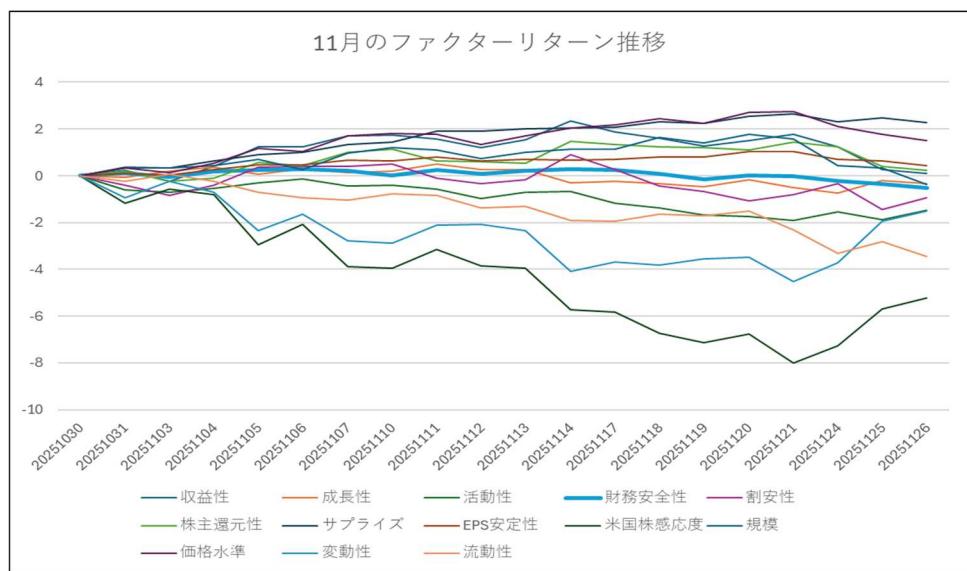
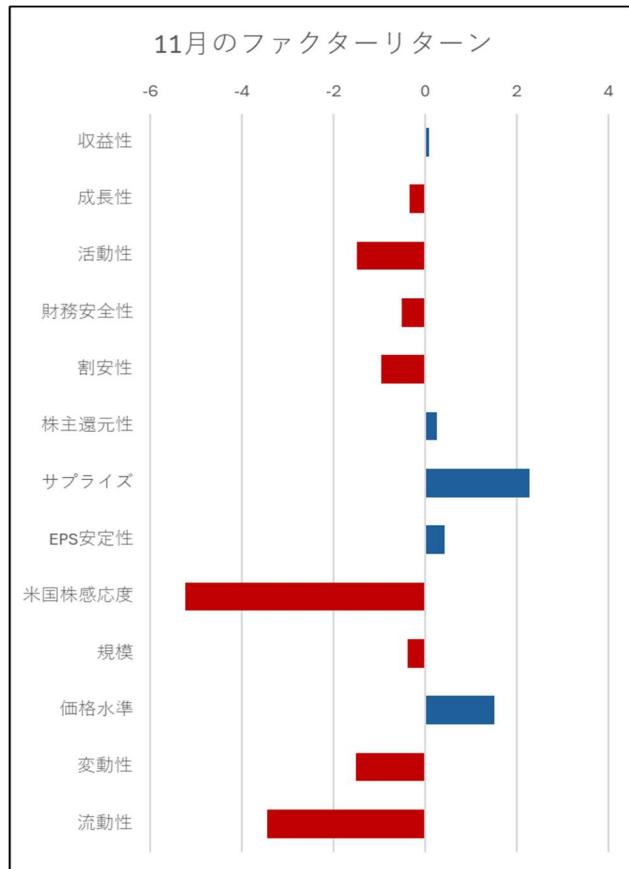
FRBのウォラー理事が12月利下げを支持する姿勢を示したことで、市場の利下げ期待が急速に高まりました。さらに、ブラックフライデーのオンライン売上高が前年比10.4%増と好調だったことも消費関連株の支援材料となりました。また、Googleの「Gemini 3」への期待からアルファベットが上昇するなど、AI開発競争の進展も材料視され、主要3指数は堅調に推移しました。

■ 月間パフォーマンスの背景

➤ ファクター動向

11月は、低リスクの好業績値嵩株が堅調となりました。

ファクターリターンの推移を見ても、業績予想修正サプライズファクター・株価水準ファクター・EPS安定性ファクターがプラスとなる一方、米国株感応度ファクター・流動性ファクター・変動性ファクターが大きくマイナスとなり、堅調が続いたAI関連銘柄を中心とする指数連動性の高いハイリスク大型グロース株が割高感から調整するなか、11月は業績を重視する資金が低リスクの好業績値嵩株へ向かったことが見て取れます。

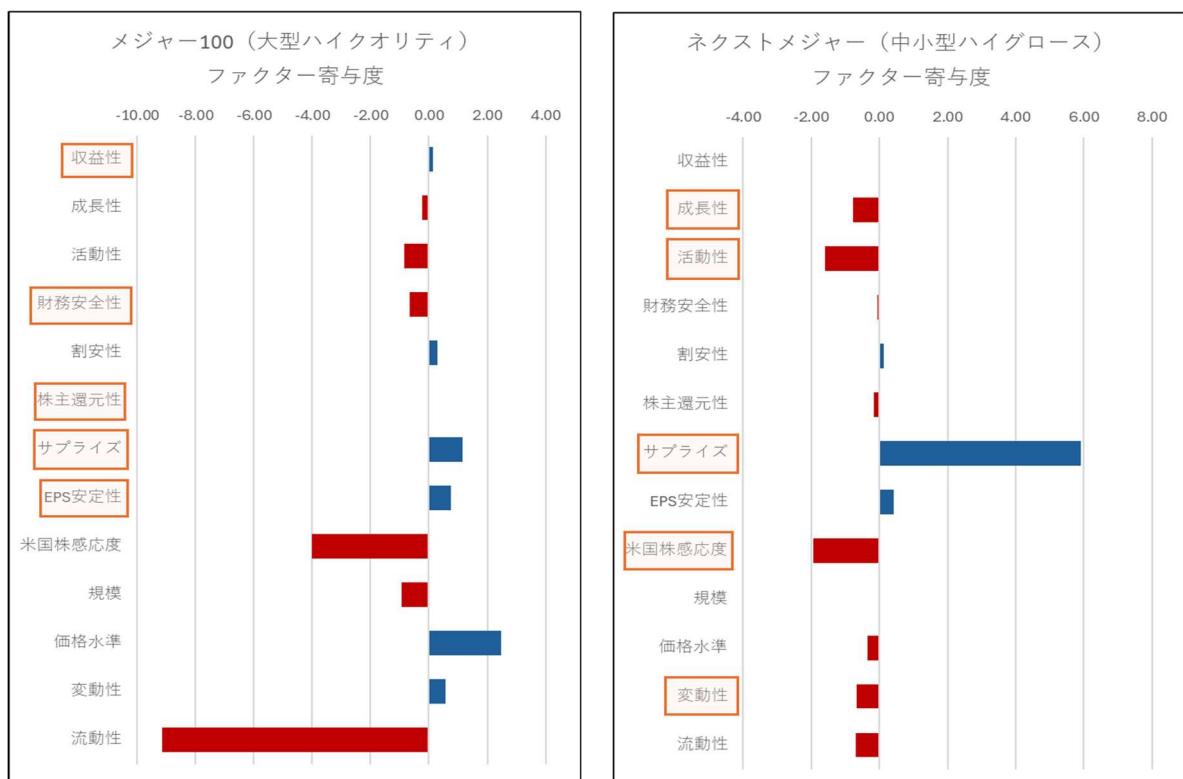


➤ ファクター寄与度

その様な市況環境のなか、WEALTH GROWTH（ウェルスグロース）がご提供している5戦略は、全ての戦略がマイナスとなり、全戦略がベンチマークをアンダーパフォームする結果となりました。

メジャー100（大型ハイクオリティ）がS&P500をアンダーパフォームした要因は、メジャー100の特徴である「好業績（=ポジティブ・サプライズ）、安定収益（=EPS安定成長）」といったポートフォリオ特性はプラスに寄与するも、大型及び高米国株感応度（=ハイベータ）及び高流動特性が大きくマイナスに寄与、さらに、金利低下期待からクオリティ特性の「財務安定（=低負債比率）」が逆に足を引っ張ったことです。

ネクストメジャー100（中小型ハイグロース）がRussel2000をアンダーパフォームした要因は、ネクストメジャー100ポートフォリオの特徴である「好業績（=ポジティブ・サプライズ）、安定収益（=EPS安定成長）」といったポートフォリオ特性はプラスに寄与するも、「高成長、高活動性、高米国株感応度（=ハイベータ）、高変動性（=ハイリスク）」といったハイ・グロース特性が大きく足を引っ張ったことです。



➤ 個別銘柄寄与度

メジャー（大型ハイクオリティ） 寄与度上位5銘柄

No	Ticker	銘柄名	組入比率	寄与度	
1	GOOGL	アルファベット	12.8%	0.75%	
アルファベット社（Google）は、ソフトウェア、ヘルスケア、運輸、その他のテクノロジーに従事する持株会社です。Gemini 3.0の成功裏な展開とデータセンターインフラへの大規模な投資は、AI競争における同社のリーダーシップを確固たるものにし、クラウドの成長と収益化の機会を広げています。また、バフェット氏率いる投資会社「バークシャー・ハサウェイ」からの多大な支援は、長期的な可能性への信頼を裏付けるもので、投資家の信頼をさらに強めています。これらのポジティブな進展もあり同社は更なる成長が期待されています。					
2	AVGO	ブロードコム	4.1%	0.42%	
ブロードコム社は、半導体およびインフラストラクチャ・ソフトウェアソリューションを設計、開発、供給するグローバルなテクノロジー企業です。拡大するAIインフラ構築から恩恵を受ける強力な位置にあり、特に主要なハイパースケールクラウドプロバイダー向けのカスタムAIチップにおけるリーダーシップがその理由です。この強みは、Google、Meta、OpenAIからの需要増加という最近のニュースからの裏付けもあり、カスタムシリコンへの戦略的転換を示唆しています。同社の財務は引き続き堅調で、持続的な成長とアナリストからの強い信頼もあり、今後も成長が期待されています。					
3	DECK	デッカーズ・アウトドア	4.9%	0.39%	
デッカーズ・アウトドア社は、日常のカジュアルなライフスタイル用途と高性能アクティビティの両方のために開発されたフットウェア、アパレル、アクセサリーのデザイン、マーケティング、流通事業を行っています。スタイル・フィナンシャルが「買収」に格上げしたこともあり、最近力強い上昇を見せています。この格上げは、Hokaブランドの堅調な成長とUggの良好な見通しを挙げており、過去においては関税や消費者支出の圧力といったマクロ経済的な逆風に直面していましたが、今後の回復を期待されています。					
4	AAPL	アップル	10.6%	0.38%	
アップル社は、米国に本社を置くグローバルなテクノロジー企業であり、コンシューマーエレクトロニクス、コンピューターソフトウェア、オンラインサービスの設計、開発、販売を行っています。最新のiPhone 17シリーズは非常に好調で、Appleが世界の出荷台数でサムスンを上回る可能性があるとの報道があり。また、JPモルガンが「オーバーウエート」を再表明したことも株価への追い風となっています。同社の財務健全性は、記録的な収益と強力なキャッシュ創出によって示されるように、極めて堅調であり、成長性と堅実性が評価されています。					
5	META	メタ・プラットフォームズ	6.1%	0.10%	
メタ・プラットフォームズ社は、ソーシャルメディアアプリケーションの開発を手掛けています。同社は最近、FTCの独占禁止法訴訟に勝利し、大きな規制上の障害を取り除き、重要な法的勝利を確保しました。さらに重要なのは、MetaがAIチップ供給の多様化を図る戦略的な動きを見せていることです。伝えられるところによると、GoogleのTPUを調達する交渉に入っており、これは、より費用対効果が高く、エネルギー効率の良いソリューションを提供する可能性があります。この動きは、懸念されている高額なAI設備投資に関する直接的な対処となります。同社は市場から過小評価されており、AI投資からの目に見えるリターンにより2兆ドル評価への明確な道筋があるとする強気なアナリストの意見と相まって、AIへの評価やテクノロジーセクターの変動性に関する広範な市場の懸念を上回る可能性が高いと見られています。					

ネクストメジャー（中小型ハイグロース） 寄与度上位5銘柄

No	Ticker	銘柄名	組入比率	寄与度	
1	ESPR	エスペリオン・セラピューティクス	8.0%	2.33%	
エスペリオン・セラピューティクス社は、高LDLコレステロール血症に対する経口治療薬の開発と商業化を行う製薬会社です。同社は最近、総収益および米国純製品収益の大幅な増加を伴う堅調なトップライン成長を示しました。主要医薬品の特許保護が2040年まで延長されたことは、将来の収益源のリスクを大幅に軽減し、強力な長期基盤を提供することになります。さらに、大塚製薬が2025年11月12日に発売した高コレステロール血症治療薬「ネクセトール」の戦略的発売は、国際的成長の大きな起爆剤となります。製品の有効性と価値を裏付ける肯定的な臨床データと、医療ガイドラインによる承認は、その市場地位を強化し続けており、さらなる成長が期待されています。					
2	ALHC	アライメント・ヘルスケア	11.7%	1.46%	
アライメント・ヘルスケア社は、メディケア・アドバンテージ・プランを通じて、高齢者や、慢性疾患を抱える虚弱な人々など、最も支援を必要とする人々にカスタマイズされたヘルスケアソリューションを提供する、消費者を中心のプラットフォームを提供する持株会社です。同社は、堅調な第3四半期決算と前年比で大幅な会員数増加に裏付けられた、強い事業モメンタムを継続しています。メディケア・アドバンテージにおけるケア提供に焦点を当てる同社の戦略は、肯定的な結果をもたらしているとし、アナリストは非常に強気な姿勢を維持しており、今後の成長が期待されています。					
3	NRDS	ナードワレット	3.1%	0.64%	
ナードワレット社は、個人金融に関する情報、洞察、そして消費者主導のアドバイスを提供するオンラインツールを開発・提供しています。同社の最近の第3四半期決算報告は非常に好調で、利益率の拡大と、オーガニック検索の課題を相殺する効果的なAI統合により、売上高と一株利益の両方で予想を上回りました。この堅調な財務実績は、S&P500をアウトパフォームし、アナリスト予想の上方修正を誘引するなど、市場に大きな勢いをもたらしています。利益確定売りに押される場面も見られましたが、根底にあるファンダメンタルズの強さとポジティブな市場の追い風が、その上昇軌道を維持する可能性が高いと見られています。					
4	BCRX	バイオクリスト・ファーマシューティカルズ	8.5%	0.37%	
バイオクリスト・ファーマシューティカルズ社は、設計における専門知識を活用し、治療困難な疾患を標的とするファーストインクラスの経口低分子およびタンパク質治療薬を開発しています。同社は、年末までに予想される小児HAE患者向けのORLADEYO経口顆粒剤のFDA承認という、潜在的に重要な材料持っています。この承認の可能性は、同社にとって主要な価値推進要因であり、ポジティブなモメンタムを生み出す可能性が高く、大きな成長へつながる可能性を秘めています。					
5	COMM	コムスコープ・ホールディング	0.8%	0.16%	
コムスコープ・ホールディング社は、通信、データセンター、エンターテイメントネットワーク向けのインフラソリューションを提供しています。同社は変革期にあり、非中核資産を売却し、ブロードバンド、エンタープライズワイヤレス、急成長するAIデータセンター市場のような高成長分野に積極的に再集中しています。特にAIとWi-Fi 7における最近の製品革新は、技術的リーダーシップへのコミットメントを強調しています。堅調な第3四半期の業績と、最近の利益にもかかわらず大幅な上昇余地を見込むアナリストからの継続的な買い推奨は、投資家の信頼をさらに強めています。					

■ Wealth Growth 戰略の目的・特色

1. 目的

予測が困難な市場構造の変化（金利・為替などの外部要因）の影響を極力排除し、S & P500 を凌駕するパフォーマンスを目指します

2. 戰略の特色

特色 1：市場構造の予測を必要としない、全てのレジームで機能する汎用性の高いマルチファクター・モデルによるクオンツ運用を行います。

特色 2：ニューヨーク証券取引所及び NASDAQ に上場する約 5,000 銘柄の詳細な市場及び財務データを活用します。

特色 3：銘柄選択において、大型株（Major）では「高収益性」「高EPS 安定性」「高財務安全性」「高株主還元性（=高配当）」「高サプライズ（=好業績）」によるハイ・クオリティ特性のモデルを活用、中小型株（Next Major）では「高成長性」「高活動性（=高い総資本回転率）」「高サプライズ（=好業績）」「高米国株感応度（=ハイベータ）」によるハイ・グロース特性のモデルを活用します。

特色 4：組入れ銘柄数は 20～25銘柄程度の集中投資、業種分散は市場構成比並みとし、リスクは S & P500 ±10%程度となるよう毎月リスク調整のリバランスを行います。

3. 戰略のコンセプト

・**Wealth Growth（ウェルスグロース）のコンセプトは、誰もできない将来の予測よりも、**

「リスク管理と損失回復力を重視した運用で資産を成長させる」ことにあります。



・**損失の回復力が運用にとって極めて重要な理由は、**

「損失よりも、利益が大きい投資」を続けていれば、いずれ利益が損失を上回る確率が高い運用となるためです。

・**回復力を示す運用指標ソルティノ・レシオ※を最大化**

ソルティ・レシオの最大化のために、AIにファクターの組み合わせを見つけ出させた結果、下記が、市況の予測を必要とせず、全ての市況で機能することが分かりました。

※ソルティノ・レシオとは、リターンの下方リスクのみの標準偏差を利用し損失のみに注目して効率を評価する尺度です。

計算式は、年率換算リターン/年率換算下方リスク。

① 大型株（Major）

「高収益」×「EPS 安定」×「財務健全」×「高配当」×「好業績」といった、ハイ・クオリティ特性あるファクターを選択し、本質的に価値の高いハイ・クオリティ銘柄群に投資します。

② 中小型株（Next Major）

「高成長」×「高活動」×「好業績」×「ハイベータ」といった、ハイ・グロース特性あるファクターを選択し、成長性の高いハイ・グロース銘柄群に投資します。

4. ファクターの説明

Wealth Growth（ウェルスグロース）は、ファクターに基づく運用を行っており、ファクターは以下を採用しています。

ファクター	代表的ファクター構成指標
1 収益性	売上高営業利益率、ROE、ROA、等
2 成長性	売上高成長率、経常利益成長率、等
3 活動性	総資本回転率、等
4 財務安全性	財務レバレッジ、CF負債比、等
5 割安性	経常利益株価比、自己資本株価比、等
6 株主還元性	配当利回り、等
7 サプライズ	経常利益修正率、等
8 EPS安定性	1年EPS変化の安定性、等
9 米国株感応度	米国株感応度60日間、等
10 規模	上場時価総額、等
11 価格水準	株価、等
12 膨落率	60日膨落率、等
13 変動性	ヒストリカルボラティリティ60日、等
14 流動性	売買代金20日平均、等

5. リスク管理

Wealth Growth（ウェルスグロース）は、回復力が高いポートフォリオを構築する際の最適化条件として、

- ① 銘柄数を、20～25 銘柄とっています
- ② 1銘柄、10%以上保有しないようにしています
- ③ 特定業種に偏重しないようにしています
- ④ 上記の様な、十分なリスク分散を考慮した上で、損失回復力が最大となるよう、AIによる最適化を行っています
- ⑤ また、エクスポージャーを監視し、ポートフォリオのリスク特性を維持するよう、定期的にリバランスを行いリスク管理を行っています

以上

※本レポートは、2025年12月3日時点の情報に基づき作成されております。

(提供：株式会社スマートプラス)

投資一任運用サービス WEALTH GROWTH(ウェルスグロース)

免責事項

ご留意事項

「WEALTH GROWTH」は、株式会社スマートプラスが提供する投資一任運用サービスです。Jトラストグローバル証券株式会社は「WEALTH GROWTH」の業務委託先として、お客様と株式会社スマートプラスとで交わす投資一任契約締結の媒介を行っております。

「WEALTH GROWTH」へのお申込、契約、お取引に関するお客様の情報に関して、株式会社スマートプラスより当社は媒介業務の範囲で業務委託先として個人情報の共有を受けております。

<業務内容について>

Jトラストグローバル証券株式会社は、本サービスにおける株式会社スマートプラスとお客様との間の投資一任契約の締結に係る媒介を行う役割を担い、以下の業務を行います。株式会社スマートプラスは、投資運用業を行う役割を担い、以下の業務を行います。

【Jトラストグローバル証券株式会社】

- ・対面または電話等による投資一任契約等および投資一任サービスの内容の説明や契約締結の媒介に係る勧誘
- ・口座開設画面や投資一任運用サービス画面への誘導・操作の案内
- ・入金状況・取引状況に関するお客さまから照会への対応
- ・株式会社スマートプラスからお客さまに提供される各種報告書等に関するお客さまからの照会への対応
- ・株式会社スマートプラスから提供されると投資一任運用サービスに係るシステム等を経由して取得可能な情報に基づくお客さまからの照会等への対応（入出金日、取引日、個別銘柄の売買内容等）
- ・投資一任運用サービスに基づきお客さまに提供されるポートフォリオのパフォーマンス、組入銘柄の内容やパフォーマンス等に関する客観的な情報等の提供

【株式会社スマートプラス】

- ・投資一任契約の説明および締結（契約締結前書面、契約締結時書面の交付）
- ・入出金に係る手続き
- ・投資一任運用サービスに係る運用ポートフォリオの構築・リバランスに係る売買の執行
- ・取引および残高に係る報告および運用に係る報告

重要事項

<手数料など諸費用について>

「WEALTH GROWTH」をお客様が利用するに当たり、以下の手数料を負担していただきます。詳細は、株式会社スマートプラスが電磁的方法等によりする契約締結前交付書面等にてご確認ください。

- ・購入時手数料（運用コース増額申込時に、増額金額に対して負担していただく費用です。投資環境の説明や情報提供等、ならびに契約締結に必要な事務コストの対価としてお支払いいただく費用となり、業務委託を行っている場合、株式会社スマートプラスから業務委託先に支払う費用が含まれます。）

- ・サービス利用料（運用資産の時価評価額に対し負担していただく費用です。ポートフォリオのリバランス（銘柄の入れ替え等）、各種レポートや報告書の作成等、およびシステム運営等に必要なコストの対価としてお支払いいただく費用となります。）

＜投資一任契約（ウェルスグロース）に係るリスクについて＞

本サービスにおける投資一任契約に基づく運用は、値動きのある有価証券（米国株式または日本株式の個別銘柄）を投資対象としているため、当該有価証券の上場市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従って、本サービスは投資元本が保証されるものではなく、投資一任契約に基づきお客様からお預かりした資産の当初の評価額（投資元本）を下回ることがあります。本サービスにおける主なリスクは以下のとおりです。ご契約に当たっては契約締結前交付書面をよくご確認ください。

【相場変動リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国または日本の上場株式（コースにより異なります。以下、「上場株式」という。）は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い価格が変動します。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【信用リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する上場株式の発行者などの信用状況に変化が生じた場合、当該上場株式の市場価格が変動することによってお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【流動性リスク】

上場株式は、市場環境の変化等により取引に支障をきたし、売却できない場合があり、本サービスはその影響を受けて換金できないリスクがあります。

【カントリーリスク】

通貨を発行する国家固有の政治的・経済的な変動等により投資元本を割込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、円を含む他通貨への交換に影響がでる可能性があります。

【為替リスク】（米国株式コースおよび米ドル預かり金のみ）

本サービスにおける投資一任契約に基づき投資運用される米国上場株式および米ドル預かり金（以下、「米国上場株式等」という。）は、為替相場（円貨と外貨の交換比率）が変化することにより、為替相場が円高になる過程では円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では円貨換算した価値は上昇します。したがって、お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式等の日々の円貨換算の時価評価時および売却時の為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。また、本サービスにおける各種手数料等の費用の徴収に伴い為替取引を行う際に、為替相場の変動により円貨換算した費用の額は変動します。

[投資一任契約の媒介業者]



Jトラストグローバル証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号
加入協会／日本証券業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

[口座管理機関]



株式会社スマートプラス
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号
加入協会／日本証券業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会